茨城教育研究所・所員会議用　　2020年9月19日

栗又　衛

# コロナ禍と教育　ニュース

**－２０２０年７月～９月・新聞記事から－**

## Ⅰ　コロナ禍の中で

### １　日本、そして茨城県では

①　8月感染　7月の1.8倍　最多3万2千人　死者も7.4倍　9／2（朝）
②　台風10号　避難所定員減、相次ぐ満杯　コロナ影響　別施設に移動も　9／8（茨）
③　水戸「夜のクラスター」　知事、「収束」宣言　大規模集中検査終え　8／25（茨）
④　いばらきアマビエちゃん　県民の登録義務化へ　条例施行目指す　8／19（茨）

### ２　世界では

①　世界の感染2千万人　米・ブラジル・印で半数超　欧州で第2波の懸念　8／12（朝）
②　世界の感染横ばい　再燃リスクなお　米などで減少　増加続くインド　9／6（朝）
③　英国　初動遅れからの転換　検査拡充で感染者減少　全国民の定期的検査へ　9／13（赤）
④　コロナ休校　世界15億人　ユニセフ　3分の1「遠隔学習」できず　8／29（赤）
⑤　集団感染、対応手探り　各国教育現場、ジレンマ　対面見合わせ遠隔授業も　9／2（茨）
⑥　感染増の欧米　悩む学校再開　「登校前提」保護者や教員は不安」　9／1（朝）

### ３　日本の学校では

①　各地で授業再開 夏休み短かかったな… 宿題少なめ「絵日記に困る」　8／18（朝）
②　「寝れない」「マスクがいやだ」「目標がない」　72%に何らかのストレス　8／29（赤）
③　学校の「感染対策」ずれてないか　机の消毒・屋外でマスク…科学的根拠は？　8／25（朝）
④　県内高校生、就活に遅れ　新型コロナ感染拡大影響　学校「ミスマッチ心配」　7／28（茨）
⑤　入試　国立大7割「配慮」　出題範囲縮小・集団での試験中止　8／1（朝）
⑥　教育実習「なし」も容認　文科省　コロナ禍で特例措置　8／12（朝）
⑦　学費工面する大学生　バイト頼み、もろさ露呈　コロナ減収、中退懸念　7／31（茨）
⑧　オンライン授業 憤る学生　「これが授業と呼べるのか」「友達ゼロで夏休み」　8／5（朝）
⑨　休校で教育格差顕在化　学びを守るには　オンライン授業整備へ投資を　8／18（朝）
⑩　デジタルいかし　勉強ぐんぐん　つくば市立みどり野学園　9／13（朝）

＊小学校では　「コロナ禍での子どもの生活」（牛久市）
＊高校では　　「都立高校の現場から」

# Ⅱ　教育ニュース

## 1　全国では

①　少人数学教の声、うねりに　文科相も「検討対象」　8／10（赤）
②　少人数学級は世界の潮流　一人ひとりの子を大事に　必要なのは政府のやる気　8／23（赤）
③　日本の子ども　「幸福度」最低レベル　教育公的支出、日本は下位　9／4（赤）
④　政治主導　中教審は「下請け」　首相肝いり組織、政策次々実現　9／3（朝）
⑤　教育基本法変わり「つくづく窮屈」　国が成果目標設定、縛られる学校　9／6（朝）
⑥　修学支援・IT化　手厚い予算　低所得層に「高等教育無償化」　9／7（朝）
⑦　個人より国家、経済の道具に　支持率を重視、甘い制度設計　9／8（朝）

## 2　茨城では

①　1人1台端末学習　「変革期」迎える現場　大子・笠間の小学校　9／10（茨）
②　熱いネット文化祭　太田一高　アート作品や部活公開　9／11（茨）
③−1　夏休みもオンラインHR　守谷市立小中　再休校時の授業を想定　8／19（茨）
③−2　教員残業減へモデル校　12校選定　月45時間以内目指す　8／31（茨）
④−1　ICT、体験留学PR　太田一高付属中が説明会　8／6（茨）
④−2　国際教育やICT活用　来春開校の中高一貫校　8／4（茨）
⑤　2高校、専科に改編　23年度から　友部→IT　つくば工科→科学　8／28（茨）
→　「県立高等学校改革プラン　実施プランⅠ期（2020年度～2023年度）　（第2部）」

Ⅱ-1 全国 ②

(7)　2020年8月23日号　しんぶん 赤 旗 日曜版

少人数学級は世界の潮流




子どもにも教員にもゆとりを







都の公立小学校勤務の20代教諭

コロナ禍で負った傷を受けとめられる体制に

一人ひとりの子を大事に必要なのは政府のやる気

SHIMBUN　2020年(令和2年)8月28日　金曜日

県立、23年度から

# 2高校 専科に改編

友部→IT　つくば工科→科学

県立高校改革の一環で、大井川和彦知事は27日、全日制普通科の県立友部高（笠間市）を募集2部制のIT（情報技術）専科に、工学系4学科で構成する同つくば工科高（つくば市）を科学技術科6学級（同240人）に改編すると発表した。両校の新学科は2023年度からスタート。県教委によると、公立高のIT専科は全国初、サイエンス専科は東京都に次ぐ設置になる見込み。大井川知事は「例外的な形で、大学受験中心の普通科だけでは育たない」とし、専門性の高い両校からの輩出に期待を寄せた。

改編は、魅力ある学校づくりなどを掲げる県教委の「県立高校改革プラン」のうち、25日に策定された「実施プラン1期後半部」（21～23年度に順次）に盛り込まれた。学級（同160人）から1学級（同40人）に改編する。

友部は普通科3学級（定員120人）から1学級をIT科とし、商業科を含む2部制を導入。システム開発や国、県の研究機関、先端企業などと協力・連携、大規模改編のため、校名変更も検討する。既存学科の募集は従来通り2部制で行う。

つくば工科は工学系学科4学級（同160人）から科学技術科6学級（同240人）に改編。1年生から授業、学校生活の相談や保護者対応などを行うコーディネーターの配置といった支援体制を構築。国語、数学、英語の3教科で学級を2分割する「少人数制」の導入も検討する。

両校とも茨城大、筑波大や国、県の研究機関、先端企業などと協力・連携、大学生が年40～50人の外国人生徒が在籍している。

実施プラン1期後半（2021～23年度）では、県立商10校の中高一貫教育校への改編が進められ、うち5校が開校した。（今井俊太郎）

高校改革プラン　プラン1期後2部の概要

友部
普通科3学級を「IT」午前、午後の2部制導入。システム開発やウェブデザインにつながる多様な専門科目設置

つくば工科
工学系4学科4学級を「科学技術科」6学級に編成。AIカリキュラムを開講。1年生から理科3分野など学ぶ

石下紫峰、結城一
外国人生徒の日本語能力に応じた習熟度別授業や学校生活の相談などにあたるコーディネーターを配置。特例入学者選抜で、